

小鈴シリーズ通信 vol.3

～ 栽培後期編：2月～栽培終了まで ～

平素から当社ミニトマト「小鈴シリーズ」をご利用ご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
本紙では、ミニトマト「小鈴シリーズ」を栽培する皆様にとって役立つ情報をシーズン中
3回にわたってお届けしております。今回、第3回目の vol.3 では、栽培後半におけるポイントを
中心にご紹介致します。引き続きご愛読頂けましたら幸いです。

目次

小鈴シリーズ一覧

小鈴シリーズに共通した特性

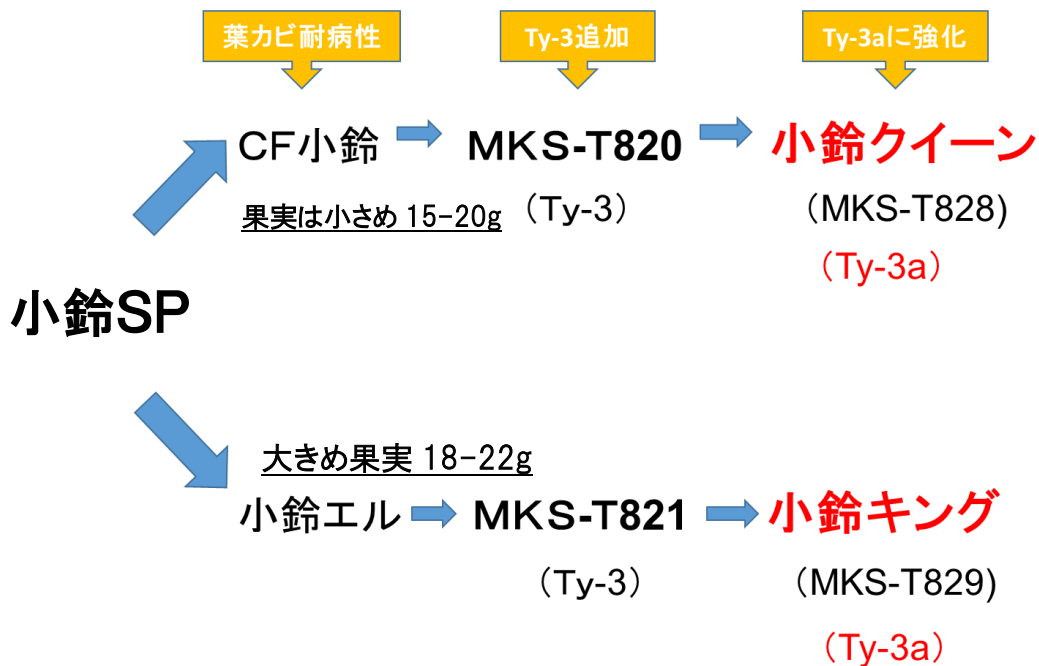
小鈴キングとクイーンの特性

栽培後期のポイント

- ✓ 草勢を維持しつつ、春から初夏の高温期に備える
- ✓ イエローショルダーについて
- ✓ 裂果防止のための温度と湿度の管理
- ✓ 適切な防除を行う



小鈴シリーズ一覧



小鈴シリーズに共通した特性

- ✓ 中葉で節間が短い
収穫開始後も 誘引作業の手間が少なく省力的である
- ✓ 草勢が強い
厳寒期以降の春先も安定した草勢を維持しやすい
- ✓ 裂果は極めて少なく 果実が硬く へたが取れにくい
収穫調整時の作業性、収穫後の輸送性、店もち性に優れる
- ✓ 果実は濃赤色でやや光沢がある
収穫後の荷姿が非常に美しい
- ✓ 食味が良い
甘みと酸味のバランスが良くコクがあり 美味しい



小鈴キングとクイーンの特長

- ✓ 黄化葉巻病耐病性を強化
‘Ty-3’より強い‘Ty-3a’にアップグレード！夏場や高温期の罹病リスクがさらに軽減、安心して栽培出来る♪
- ✓ 早生性
従来、Ty-3aを付与すると熟期が遅くなってしまっていた。しかし早生性をキープしたまま Ty-3a 因子を持たせることに成功！
- ✓ 小鈴シリーズの特長はすべてそのまま！

栽培のポイント

✓ 草勢を維持しつつ、春から初夏の高温期に備える

- 低温期はやや強めの草勢を維持し、気温の上昇期に合わせて少しずつ追肥量を減らしていく。
- 灌水は引き続き少量多回数を心掛けるが、気温の上昇に合わせて灌水量を徐々に増やす。
- 春先からの高温に備えるため、早めに遮光カーテンや遮光資材などの準備をしておく。
- 特に4、5月の高温時は、すじ果や果実の着色不良果（イエローショルダー、黄変果）が発生しやすくなる。

✓ イエローショルダーについて

【発生と要因】

- 日照量が増える時期に、果実の肩の緑部分が黄色く残り商品価値を低下させることがある。
- 果実のグリーンショルダー部分の葉緑素が分解されず、赤く着色しないことで発生する。
- 果実温度が上がりすぎることやカリウム欠乏が発生要因となる。

【対策として】

- 3月ころからは草勢に応じて窒素 N の追肥を徐々に減らし、果実品質向上に努める。
- 摘芯後は追肥を控え、なるべく土壌中の残存肥料を有効利用する。
- 気温の上昇や日射量の増加に伴い、日焼け果や軟化果防止のため、下葉かきや摘葉のタイミングを遅らせ葉を多く残すようにする（リーフカバーとしての活用）。
- 摘芯時の草勢が強い場合、収穫最終段よりも1段高い節位で摘芯し、草勢バランスとリーフカバーを確保することで果実品質を高める。



すじ腐れ果(すじ果)
N過多で発生を助長する



発生初期



発生後期

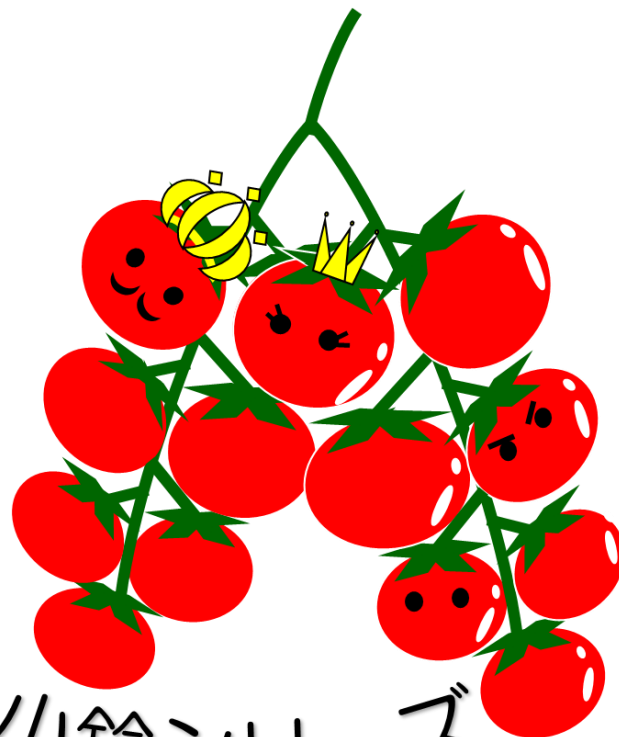
イエローショルダー果

✓ 裂果防止のための温度と湿度の管理

- 晴天日の日中はこまめに換気を行い、ハウス内湿度を調節する。
- 曇天時も気温に応じて、除湿のために換気を行う。
- 晴天日の日中はハウス内温度 25～28℃程度を目安に換気管理を行う。
- 果実裂果を防止するため、出来る限り最低温度が 12℃以下にならないように適切に暖房を利用する。
- 適切に遮光カーテンや遮光資材を使用する。
- 果実へ直射日光が当たることを避ける。特に草勢が弱めの場合は摘葉を控え、葉で果実や果房をカバー出来るようにする。
- 過度な灌水や乾湿差は裂果の発生を助長するため、避ける。

✓ 適切な防除を行う

- 灰色カビ病やすすカビ病、うどんこ病の防除と、黄化葉巻病や黄化病発生防止のためコナジラミ類の防除も徹底する。
- ハウス内の湿度が上がり気温の寒暖差が激しい時期は、特に灰色カビ病に注意する。また芽かきや下葉かきなどの管理は晴天時に行い、作業後の傷口をよく乾かすように努める。
- 日照量が増え、ハウス内が乾燥する機会が増えると、うどんこ病の発生が増えるため注意を払う。
- 小鈴シリーズは葉カビ耐病性を有しているが、罹病することもありえることから、適正な草勢維持を行うとともに、ハウス内温度・湿度の管理と防除を徹底する。



小鈴シリーズ



みかど協和株式会社

